SGH だより
SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL
Leave no one behind. We are always with you.

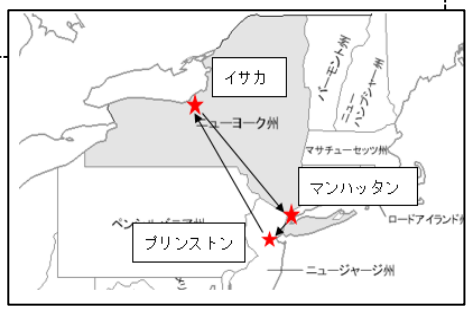
Ｎｏ．４：Ｈ２９．１０
編集：ＳＧＨ推進室
発行責任者：宮﨑　栄治

２年SGコース海外研修を行いました!!

10 月 2 日から 10 月 9 日にかけて、2 年 SG コースが海外研修を行いました。現在生徒たちが進めている課題研究のテーマに関する調査を行い、プリンストン大学・高校の学生に対する発表や意見交換を通して、国際的な視点から研究を深めることができました。英語でのコミュニケーション能力も向上しました。

～研修の行程～

１日目：由水南さんによる英語ワークショップ／２日目：国連本部見学ツアー、国連職員による講義、スタイベサント高校での交流／３日目：プリンストン高校での授業、ホームステイ／４日目：プリンストン高校→プリンストン大学生と交流、ホームステイ／５日目：プリンストン高校での交流
６日目：エコビレッジ・イサカでの活動



✣英語ワークショップ

ニューヨークでミュージカルを中心に舞台俳優として活動している、本校卒業生の由水南氏によるワークショップ「MY success NY セミナー」に参加しました。演劇のエクササイズを利用して体と心を解放し、間違いを恐れずに積極的に英語でコミュニケーションを取る姿勢を楽しく学び、この研修に向かう心の準備ができました。

夢に向かって努力し、その夢をかなえている由水さんは、自分たちにとって人生のとても良い手本だと思う。Just do it.や、It's up to you.という言葉は、これからの人生にも役に立ち、あらゆる場面でいえることだ。

今の彼女があるのは勇気をもって行動に移したからだと思う。「日本人であることを逆手にとって」という話があったが、一見不利な点も見方を変えればメリットになるという考え方は課題研究にも通じるところがある。

✣国連ツアーと国連職員によるレクチャー

UNFPA（国連人口基金）に勤めている加藤順平氏から、人口問題やジェンダー等、現在国際社会が抱えている課題や取り組みについて講義を受けました。また、国連ツアーでは、実際の会議場に入り、英語で国連の活動を説明してもらったことで、国連で働く事がより具体的に理解できました。

１分ごとに世界全体で費やされている軍事費の金額を示す作品があった。軍事費を減らす目標を掲げていながら年々増えていく現実と今の額の大きさに、減らすことの難しさを感じた。

✣スタイベサント高校との交流

スタイベサント高校との交流が実現し日本語の授業にも参加して、英語によるコミュニケーションを通じて気持ちが交わり合うことの楽しさを実感しました。

▲スタイベサント高校生との交流！

誰もが必ず持っている「色眼鏡」をはずす努力をしなければならないという言葉や「選択ができる社会」という言葉が心に残った。自分の正義や価値観が必ずしも相手と同じではないということを頭においておくことの大切さを感じた。

✣プリンストン高校

プリンストン高校では英語で、課題研究のプレゼンテーションを行い、同世代の高校生と質疑応答のディスカッションを行いました。また、それぞれのバディと一緒に授業に参加しました。

✣プリンストン大学

大学では、日本語を学んでいる学生に向けて課題研究のプレゼンテーションを日本語で行い、質疑を受けて議論をしました。昼食時間には、英語での会話がはずみました。

海外の学校の学生が自分たちと同じことを、違う言語を用いて学習しているのが新鮮だった。不思議とその姿を見て、日ごろの学習への意欲が高まった。今、私たちが学習していることは世界中の人たちが学習していると実感し、日ごろの学習が世界中で必要とされていると痛感した。

私たちが研究について話すことができたのは、インド系アメリカ人の方、アメリカ出身でケニアに英語の先生として行ったことのある方、そして物理を専攻している方の三人でした。なかなかアフリカの様子を知ることはできないけど、実際に生活していた方のお話しを聞けたのは大きいと思う。

日本語を勉強している学生さんに、なぜ英語を勉強しているのかと聞かれ、必修科目だからだとしか答えられなかった。それが理由なのは確かなのだが、自分の意志で学んでいる彼らからすると不自然なのかもしれない。ここでも学びに対する姿勢の違いを感じた。

✣ホームステイ体験

10 月 4 日と 10 月 5 日は、プリンストン高校の生徒の家庭にホームステイをしました。実際にアメリカの生活を体験し、日本での生活との違いを肌で感じたようです。ホストファミリーとかけがえのない時間を過ごすことができました。

▲最後にプリンストン高校生とパシャ！

- 自分のホストファミリーはどこか特別な場所を訪れたりせず、いつもの生活の中に自分を入れてくれる感じで、アメリカの日常生活が分かったのでとても良かった。
- 初めて異文化に触れるときは戸惑うものだが、そのまま拒絶するのではなく、こういう文化もあるのだと認めたうえで、多様な価値観を知りたい。
- バディは、政治や世界情勢について興味を持ち、しっかりと自分の意見を持っていることがすごいと思った。
- 日本人だと遠慮して言わなかったり、聞かなかったりすることを、ホストファミリーが遠慮なくぐいぐい言ったり聞いたりしてきて最初は驚いた。

✣エコビレッジ・イサカでの活動

自然と調和し、持続可能な生活を目指したコミュニティづくりを実践しているエコビレッジ・イサカ。住民の方の農作業を手伝い、お好み焼きを作っておもてなしし、最後には研究テーマについて意見交換を行いました。アメリカ人の視点から英語で意見や助言をいただき、これからの研究に大変参考になったようです。

はじめに、ベリー農場の手伝いをした。私たちの研究テーマは農業なので、実際に体験をしてみて、本当に私たちのプランが実現可能なのかということをよく考えさせられた。また、学校で話し合うだけですすめるというのは、創造や固定概念を知らず知らずのうちに含んでしまっていることに気づかされた。

「女性は家事で男性は仕事」というステレオタイプはアメリカにも少しあるが、日本は島国だからアメリカよりもこの考え方が強いのだということも話を聞いてわかった。これからの研究では、国内の格差（違い）、ステレオタイプのこわし方を考えていきたい。

英語での話は難しかったが、アメリカに来る前よりは上手くできるようになった気がしたので良かった。課題研究のディスカッションでは、新たな視点でたくさんのアドバイスをいただけて、今までで一番ためになったと思う。

課題研究についての意見交換会では、食料廃棄について「廃棄を直接的に減らす」のでなく「収穫量を減らすなどして間接的に減らす」というようなエコビレッジの方から教わった新たな視点から物事を考えることができ、充実したものになって良かった。